

2019年6月30日～7月10日まで、アゼルバイジャン共和国のバクーで、第43回世界遺産委員会が開催されました。

世界遺産登録数

新規登録遺産数

分類別合計

文化遺産：24件

869件

自然遺産：4件

213件

複合遺産：1件

39件

総数

1,121件

危機遺産リスト登録数

リスト入り1件

危機遺産 総数

53件

リスト脱した2件

◆ 危機遺産リスト入りした遺産

- ① カリフォルニア湾の島々と自然保護区群【メキシコ合衆国】

◆ 危機遺産リストを脱した遺産

- ① ハンバーストーンとサンタ・ラウラの硝石工場【チリ共和国】
 ② イエス生誕の地：ベツレヘムの聖誕教会と巡礼路【パレスチナ自治政府】
 ※ 危機遺産の一覧表は、本資料のP6～8に掲載してあります。

遺産保有国数と登録数

◆ 新しく世界遺産保有国となった国

今回新たに世界遺産保有国となった国はなく、2019年7月現在、193の加盟国中、**167の国と地域**に世界遺産が存在します。

◆ 上位遺産保有国と保有遺産数

001. イタリア共和国【55件】
 001. 中華人民共和国【55件】
 003. スペイン【48件】
 004. ドイツ連邦共和国【46件】
 005. フランス共和国【45件】

日本の遺産数は23件で、12番目に世界遺産を多くもつ国である。

第43回開催地(予定)

2020年に開催される第44回世界遺産委員会は中華人民共和国の福建省にある福州市で開催予定。

文化遺産

(※ 遺産名は仮訳です)

遺産名	保有国名	登録基準
ブルキナファソの古代製鉄遺跡群	ブルキナファソ	(iii) (iv) (vi)
バビロン	イラク	(iii) (vi)
ディルムンの墳墓群	バーレーン王国	(iii) (iv)
バジ・ビムの文化的景観	オーストラリア連邦	(iii) (v)
良渚古城遺跡	中華人民共和国	(iii) (iv)
ラジャスタン州のジャイプル市街	インド	(ii) (iv) (vi)
サワルトのオンビリン炭鉱遺跡	インドネシア共和国	(ii) (iv)
百舌鳥・古市古墳群	日本国	(iii) (iv)
ジャール平原：シエンクワーン県の巨大石壺遺跡群	ラオス人民民主共和国	(iii)
バガン	ミャンマー連邦共和国	(iii) (iv) (vi)
書院：韓国の性理学教育機関群	大韓民国	(iii)
ライティング・オン・ストーン／アイシナイピ	カナダ	(iii)
クラドルビ・ナト・ラベムにある式典馬車用の馬の繁殖・訓練地の景観	チェコ共和国	(iv) (v)
アウクスブルクの水管理システム	ドイツ連邦共和国	(ii) (iv)
クシェミオンキにある先史時代の縞状フリント（火打石）採掘地域	ポーランド共和国	(iii) (iv)
マフラの王家の建物：宮殿、バシリカ、女子修道院、セルコ庭園、狩猟公園（タバダ）	ポルトガル共和国	(iv)
ブラガのボム・ジェズス・ド・モンテ聖域	ポルトガル共和国	(iv)
プスコフ建築派の聖堂群	ロシア連邦	(ii)
リスコ・カイドとグラン・カナリア島の聖なる山々の文化的景観	スペイン	(iii) (v)

遺産名	保有国名	登録基準
ジョドレルバンク天文台	英国	(i) (ii) (iv) (vi)
ハーン宮殿のあるシェキの歴史地区	アゼルバイジャン共和国	(ii) (v)
コネリアーノとヴァルドツピアーデネのプロセッコ栽培丘陵群	イタリア共和国	(v)
フランク・ロイド・ライトの20世紀の建築	アメリカ合衆国	(ii)
エルツ山地／クルスナホリ鉱業地域	チェコ共和国／ドイツ連邦共和国	(ii) (iii) (iv)

自然遺産

遺産名	保有国名	登録基準
フランス領南方地域の陸と海	フランス共和国	(vii) (ix) (x)
中国の黄海・渤海湾沿岸の渡り鳥保護区(第1段階)	中華人民共和国	(x)
ヴァトナヨークトル国立公園:火山と氷河がつくるダイナミックな自然	アイスランド共和国	(viii)
ヒルカニアの森林群	イラン・イスラム共和国	(ix)

複合遺産

遺産名	保有国名	登録基準
パラチーとグランジ島:文化と生物多様性	ブラジル連邦共和国	(v) (x)



バビロン

© Qahtan Al-Abeed

ヴァトナヨークトル国立公園

© Snorri Baldursson





百舌鳥・古市古墳群

Mozu-Furuichi Kofun Group: Mounded Tombs of Ancient Japan

文化遺産

登録年

2019年

登録基準

(iii) (iv)

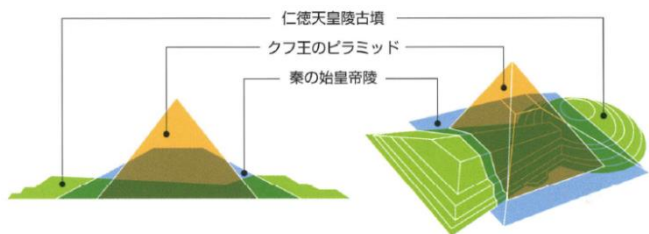
古墳時代の社会構造を伝える古墳群

「百舌鳥・古市古墳群」は、大阪府堺市にある「**仁徳天皇陵古墳(大仙古墳)**」や、藤井寺市・羽曳野市にある「**応神天皇陵古墳(萱田御廟山古墳)**」などの、45件49基の大きささまざまな古墳で構成されている。資産数の45件と古墳数の49基で数が異なるのは、仁徳天皇陵古墳のような大きな古墳には、陪冢と呼ばれる小型の古墳が附属していることがあり、構成資産としてはそれらを合わせて1件と数えているため。

関西地方を中心に、日本各地に古墳があるが、「百舌鳥古墳群」と「古市古墳群」の2ヶ所の古墳群には、仁徳天皇陵古墳(大仙古墳)という日本最大の古墳があることに加え、「前方後円墳」「帆立貝形墳」「円墳」「方墳」という大きささまざまな4種類の古墳が見られるということがある。こうした古墳群から、**日本の古墳時代の個人の権力の大きさや社会的な権力の構成などを証明**できると考えられている。

日本の古墳時代には強大な権力構造があり、それを東アジアとの海上交易が行われる時代に東アジアの国々に対して示す意味があった。「百舌鳥・古市古墳群」は海上交易の窓口であった大阪湾を望む台地の上にあり、大阪湾を行き来する船からは、港に対して長辺を向ける巨大古墳がよく見えたと考えられている。しかし、東アジアとの交易や文化交流の中で仏教が日本に伝わってくると、巨大古墳が作られなくなり、天皇の陵墓を守る役割は寺院に移っていった。

百舌鳥エリアには、4世紀後半から5世紀後半にかけて、100基を超える古墳が作られたが、その後の都市開発などで壊され、仁徳天皇陵古墳や孫太夫山古墳、いたすけ古墳など44基が残る。構成資産に含まれるのは、その内23基。一方で古市エリアには4世紀後半から6世紀前半にかけて130基を超える古墳が作られた。現在は応神天皇陵古墳や津堂城山古墳、三ツ塚古墳など45期が残る。構成資産に含まれるのは、その内26基。



	仁徳天皇陵古墳	クフ王のピラミッド	崇の始皇帝陵
全長	約486m	約230m	約350m
高さ	約35.8m	約146m	約76m
体積	約140万㎡	約260万㎡	約300万㎡



百舌鳥エリアにある「仁徳天皇陵古墳」

名称や公開などの課題

「百舌鳥・古市古墳群」には、宮内庁が管理する天皇の陵墓が含まれており、構成資産名や公開について課題も指摘されている。

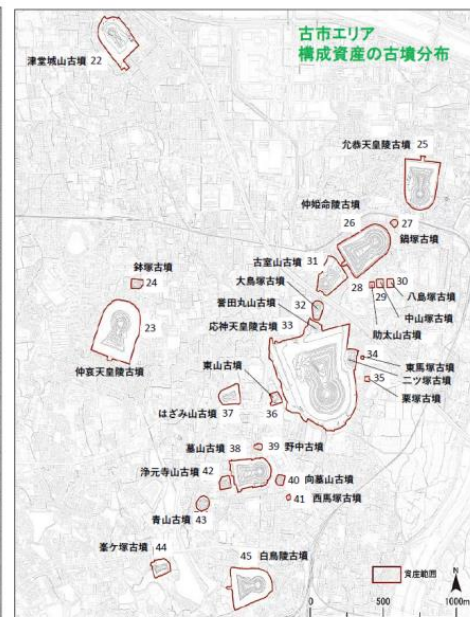
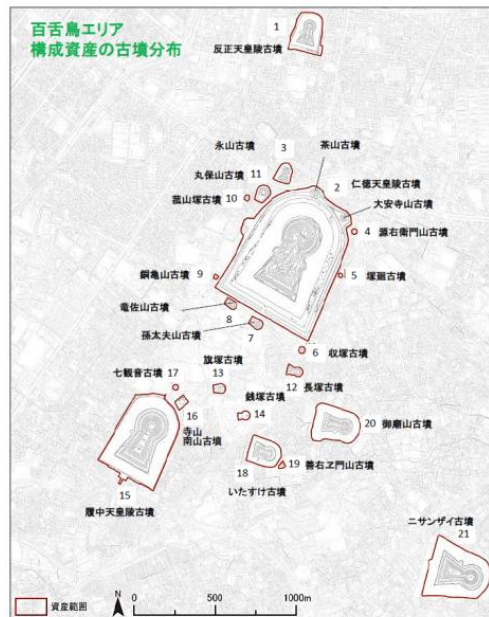
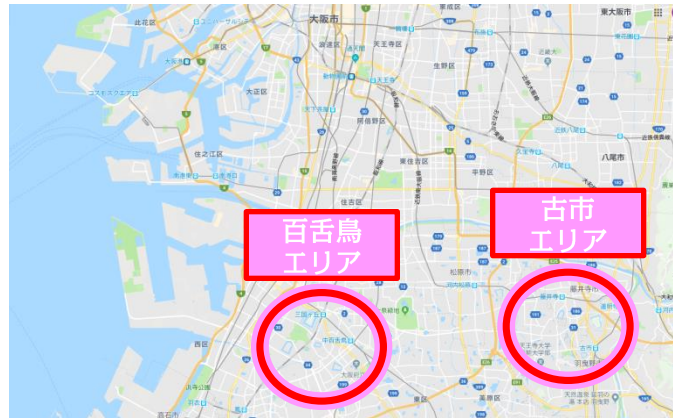
「陵(みささぎ)」というのは天皇や皇后、皇太后などを葬る所、「墓」はその他の皇族を葬る所を指す。ここでは誰が葬られているのか決められている。被葬者を特定することを「治定」と呼び、宮内庁が管理している陵墓の多くは、江戸末期から明治初期にかけて、日本書紀や古事記などの記述を基に治定が行われた。一方で「古墳」は文字通り古い墳墓のことで、誰が葬られているのかは特定されていない。

構成資産「仁徳天皇陵古墳」などは、「陵」と「古墳」が1つになっており、「仁徳天皇陵」であることを譲らなかった宮内庁と、被葬者が特定できていないとする考古学者などとの間の折衷案となっている。世界遺産として「仁徳天皇陵」という名前が出たことで、この古墳で仁徳天皇を埋葬していると学術的にも特定されていると誤解を与えかねないとする懸念が、考古学の専門家などから出されている。

また、宮内庁が管理する陵墓は、研究者や一般に対しても公開されていない。今後、考古学的な研究内容と、治定との間の見解の違いをどのように埋めてゆくのかも求められており、公開をどのようにしていくのかも検討課題となる。しかし、構成資産の全てが非公開なわけではなく、古市エリアの藤井寺市にある

津堂城山古墳や鍋塚古墳、古室山古墳、大鳥塚古墳などは墳丘に登ることが出来る。津堂城山古墳は、古墳群の中では最初期に作られてものと考えられており、水鳥形埴輪など珍しい埋葬品も見つかっている。

他にも、都市の中心部にある古墳の景観の保護や、開発対策、観光客対策など考えてゆかなければならない点も多い。



百舌鳥エリア (Google Mapより)



危機遺産

遺産名	保有国名	登録年
エルサレムの旧市街とその城壁群	エルサレム(ヨルダン・ハシェミット王国による申請遺産)	1982
チャンチャンの考古地区	ペルー共和国	1986
ニンバ山厳正自然保護区	ギニア共和国及びコートジボワール共和国	1992
アイールとテネレの自然保護区群	ニジェール共和国	1992
ヴィルンガ国立公園	コンゴ民主共和国	1994
ガランバ国立公園	コンゴ民主共和国	1984~92, 1996
オカピ野生動物保護区	コンゴ民主共和国	1997
カフジ・ビエガ国立公園	コンゴ民主共和国	1997
マノヴォー-グンダ・サン・フローリス国立公園	中央アフリカ共和国	1997
サロンガ国立公園	コンゴ民主共和国	1999
ザビードの歴史地区	イエメン共和国	2000
聖都アブー・メナー	エジプト・アラブ共和国	2001
ジャームのミナレットと考古遺跡群	アフガニスタン・イスラム共和国	2002
バーミヤン渓谷の文化的景観と古代遺跡群	アフガニスタン・イスラム共和国	2003
アッシュル(カラット・シェルカット)	イラク共和国	2003
コロとその港	ベネズエラ・ボリバル共和国	2005
コソボの中世建造物群	セルビア共和国	2006
古代都市サーマッラー	イラク共和国	2007
ニョコロ・コバ国立公園	セネガル共和国	2007
カスビのブガンダ王国の王墓	ウガンダ共和国	2010
アツィナナナの熱帯雨林	マダガスカル共和国	2010

遺産名	保有国名	登録年
エヴァーグレーズ国立公園	アメリカ合衆国	1993～2007, 2010
スマトラの熱帯雨林遺産	インドネシア共和国	2011
リオ・プラタノ生物圏保存地域	ホンジュラス共和国	1996～2007, 2011
リヴァプール海商都市	英国(グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)	2012
パナマのカリブ海側の要塞群:ポルトベロとサン・ロレンツォ	パナマ共和国	2012
アスキア墳墓	マリ共和国	2012
伝説の都市トンプクトゥ	マリ共和国	1990～2005, 2012
アレppoの旧市街	シリア・アラブ共和国	2013
クラック・デ・シュヴァリエとカラット・サラーフ・アッディーン	シリア・アラブ共和国	2013
古代都市パルミラ	シリア・アラブ共和国	2013
シリア北部の古代集落群	シリア・アラブ共和国	2013
隊商都市ボスラ	シリア・アラブ共和国	2013
ダマスカスの旧市街	シリア・アラブ共和国	2013
東レンネル	ソロモン諸島	2013
セルー動物保護区	タンザニア連合共和国	2014
ポトシの市街	ボリビア多民族国	2014
オリーブとワインの地ーバティールの丘:南エルサレムの文化的景観	パレスチナ自治政府	2014
サナアの旧市街	イエメン共和国	2015
城壁都市シバーム	イエメン共和国	2015
円形都市ハトラ	イラク共和国	2015
シャフリサブズの歴史地区	ウズベキスタン共和国	2016
ジェンネの旧市街	マリ共和国	2016
ガダーミスの旧市街	リビア	2016

遺産名	保有国名	登録年
キレーネの考古遺跡	リビア	2016
サブラータの考古遺跡	リビア	2016
タドラールト・アカークスの岩絵遺跡群	リビア	2016
レプティス・マグナの考古遺跡	リビア	2016
ナン・マトール:ミクロネシア東部の儀礼的中心地	ミクロネシア連邦共和国	2016
ウィーンの歴史地区	オーストリア共和国	2017
ヘブロン:アル・ハリール旧市街	パレスチナ自治政府	2017
トゥルカナ湖国立公園群	ケニア共和国	2018
カリフォルニア湾の島々と自然保護区群	メキシコ合衆国	2019



カリフォルニア湾の島々と自然保護区群

© UNECSO